



★ 通院介護支援事業交流会・報告号 ★

去る12月2～3日に通院介護支援事業交流会が開催され、17の加盟県組織と24の実施団体から61名の参加者が全国から集いました。今回は、初めての交流会ということで、参加者の関心の集まったテーマについて、経験交流や意見交換を行いました。

参加者からは、「団体によって実状は様々であることが印象的だった」「準備を進める上で参考になった」という感想や、「分科会でテーマ別に話し合いたい」「ボランティア精神・意義に触れなかったのが残念」などの意見が寄せられましたが、“よりよい活動にしたい”という熱意が現れている交流会だったと思います。

下に討議内容をまとめました（順不同）。実施団体の活動形態 **別紙1** も併せてご覧下さい。

＊専用車両があるといいけれど…、0～4台まで色々＊

川口：冬は雪が多い。四輪駆動の車がほしい。

大津：現在ワゴン車3台で、来春4台になる予定。日本財団では希望車両を指定して助成が受けられる。購入費（車両本体）は全額助成。保険はボランティア保険・移送サービス保険など社協の用意している保険がある。

太田：現在4台所有。自動車販売店から“廃車予定の車を格安で譲り受けリニューアル”“車検用の代車を借りて”“幼稚園から買い換えることになった古い送迎車をもらった”など。

板橋：日本財団から車両をもらうことになったが、運転できる事務局スタッフは一人。駐車場代、保険料など維持費のやりくりで頭が痛い。

＊NPO申請・行政交渉は大変！使命感を持って粘り強く＊

保谷：NPO申請したが、書類が細かく厳しく直される。全腎協で申請のノウハウを指導して！

太田：県毎にマニュアルを用意していて、様式も違う。4回提出してやっと受理された。

北九州：県のマニュアルと一字一句違わずに作れば、スムーズに受理される。

大津：役所はそういうもの。何のために申請するのか使命感を持って！団体内の意思統一が大事。

秦野：対市交渉しても、1病院では公的な助成を受けられないので市内の全透析施設に対象を拡げ、その後、高齢者などにも拡大した。最近は市から「NPOを取得したか」尋ねられるので、取得した方がいいと思う。

川崎：川腎協会員が介護保険事業所「NPO・おおすみ」を立ち上げた（「コスモスの会」と連携）。やはり「人」がいないと、NPOを取るのは難しい。

熱海：腎友会は病院単位になっているので市の単位で組織化するのは難しい。現在は1病院の患者

・家族しか入っていないが、元気な人は市外で透析していて、市内の患者は高齢者ばかり。勧誘しようにも活動できる人が少なくて大変。NPOの取得も考えられない。

神戸：任意団体、特に出来たばかりの団体では、助成の要望など行政交渉は成果が上がりにくい。難病連や県腎協など、行政とつながりのできている上部団体は陰に日なたに、実施団体を支えて行くべきだと思う。

＊ボランティア確保・団体間の格差はつきり＊

福岡：今はマイカーボランティアだけ。送迎用車両は持ちたいが、ドライバーの確保はどうすればいいか？

神戸：社協のボランティア研修で通院ドライバー研修の講師を担当した。そこに参加したドライバーは運転ボランティアになってくれる人が多い。逆にマイカーボランティアは集まらない。

太田：市の広報に掲載、1回につき5～10人は問い合わせがある。60歳以上の年金生活者で、体力に自信がありボラとしての資質がある人をボラに採用。人はタダでは動いてくれない時代なので、有償で活動してもらっている。

秋田：1～2台では市内9ヶ所の透析施設に回れない。マイカーボランティアだけで活動している。遠距離送迎する人に一律300円でいいのか、不安がある。

室蘭：タダでしてくれる人ばかり。「安い」と文句を言う人はいない。申し訳ないぐらい。

福岡：問い合わせがあっても申し込みは1/3に減る。「300円では安くてできない」という人も。その代わり、一度入ったら辞める人は殆どいない。300円を戻す人すらいる。現在約60人のボラ登録。事務所にボランティアさんがよく来てくれるので、コミュニケーションを大切にしながらつなぎ留めている。

秦野：新聞や広報に載せてもボラは集まらなかった。公共施設や地元の商店、タウンニュースなどで宣伝している。大量に撒いてあまり期待しないこと。毎年5人くらい入れ替わるが常時、45名くらいは維持できる。

＊コーディネーターは大事な存在・待遇もきちんと＊

秦野：コーディネーターをしていた社協の職員が介護保険スタートで手一杯になり、現在は運転ボランティアだった主婦が担当。キャンセルや変更など毎日のコーディネート業務は運転ボランティアと比較にならない負担。月3万円払っている。

室蘭：腎友会役員が事務局を兼務しているが、報酬無し。コーディネーターだけは、「遅れても」「緊急時は土日でも」出てきてほしいということで、月3万円支給している。

神戸：申込みは電話相談から入る。対応しきれないケースは難病連の看護婦さんに依頼。謝礼は出せば払っている。相談業務や助成金申請の書類作成など、マネージャー（コーディネーター）の業務はとても重要。ある程度報酬を出して常勤スタッフとして置くべき。

佐賀：コーディネーターは夜間透析で月～金の毎日5時間出ている。会計から運転まで必要なことは全てしてもらおう。県の助成金で「指導員報酬」として月6万円支給している。

板橋：コーディネーターに人件費は払っているが、全額「会」に戻してくれている。「会」の運営が厳しいことを知っていること、障害年金で生活できることなどが理由。

小千谷：事務局長が、自宅で会計・コーディネート・ボランティアも全てしている。もし具合が悪くなったら、「会」は立ち行かない状況。

旭川：1万円/月。個人宅でコーディネート。あまり変更はないが、事務処理が大変。

トラブル：事故経験は殆ど無し。透析後は体調の変化に注意

北九州：一度、交差点でバイクと接触事故を経験した。けがには至らず、双方の保険会社が同じだったため、示談がスムーズにまとまった。

福岡：ボランティアさんに任意保険、特に搭乗者保険にも入っているかどうか確認している。

太田：車両には、車いす・毛布・ティッシュ・ゴム手袋を積んでいる。ボランティアには携帯電話を渡している。医療行為はできないので、それ以上は不要。

神戸：利用者は自分の具合がどのくらい悪いかわかっていない。ボランティアが注意しなければ。

北九州：穿刺部から出血しても、利用者が気づかないことがある。家族に同乗してもらったり、必要な人にはビニルシートを敷くなどして対応。また、感染症についてDr. に対応の仕方を書いてもらった。

Q & A：他団体との関係・送迎対象地域・利用決定基準

Q／退職者のボランティア団体はあるが、することが見つからない。送迎活動を検討したい。既存のボランティア団体とタイアップしている実施団体はあるか？

A／「市の職員の退職者組合に依頼しようかという話はあった。」

「身障連と連携し、車いす利用者に運転ボランティアを担当してもらうことになった。」

「他のボランティア団体とネットワークを組み、利用者の状況に応じて受け入れ団体を振り分けてはどうかと考えている。」

Q／社協や医療の専門職、行政との関係は？ 運営に携わってもらっているか？

A／「社協に登録すると違法性を追求されないという利点があるので登録団体になった。」

「医師は送迎団体の相談役。運営には関わっていない。」

「医師の協力を得るために透析従事者研究会で事例発表したりしている。」

「MSWが申込みを受けており、運転ボラもしてくれている。」

「行政は助成の相談には行くが、直接関わっていない、協力を得にくい。」

Q／病院が相乗りで送迎車を運行している。あえてボランティアがすべきかどうか？

A／「病院は最寄り駅との往復を送迎している。ドア・ツー・ドアはできないので患者会が行うことになった。」

Q／送迎距離はどのくらいか？人口が少ない地域では対象地域が一市町村では狭いように思う。

A／「基本的に居住地単位。」

「隣接市まで送迎している。帰りは隣接市の送迎団体が送迎するというケースもある。」

「15km以内。」

「他区からの利用申込みでも、その近くにボランティアがいれば受け入れたいと思っている。」

Q／利用者の選定はどのようにして行うのか？

A／「タクシーでないと通院できない人、高齢・歩行困難・視覚障害のある人が対象。」

「家族状況や身体状況も考慮して、役員会で検討する。」

「社協（ボラセン）のコーディネーターが、利用者のニーズに合わせて振り分けていた。」

「医師やMSWなどに聞いて決める。」

（車いす利用者のみを対象としている団体もあります。）

今回は自己紹介の時間が長すぎたようです。次回は、グループディスカッションや講師による勉強会など、テーマを絞ったプログラムも企画したいと思います（西）

★『つぶやきコーナー』★

庄司 勢津子 しょうじ せつこ (「たいせつ旭川」・利用者(家族)／旭川市)

旭川地方腎友会においても、この通院支援事業ができないだろうか？と提案したのは、平成10年8月より旭川地方腎友会通院支援センター「たいせつ旭川」のボランティアの車で送迎のお世話になって2ヶ月あまり、主人共々感謝の日々でございます。

お世話になり始めた8月より週3回の透析になり、少し落ち込む日々でしたが、ボランティアの安東さんに助けられ、口数の少ない主人の口からも安東さんにお礼の言葉が出るようになりました。この病気になり、いろいろな方達にお世話になる日々ですが、人様に感謝する態度が自然に出るようになったことが、とても嬉しく思います。

脳梗塞の後遺症が残っていて、車の送迎にも介護が必要ですが、ヘルパーさん達にもよくしていただいて何とか頑張って通院中です。

この12月末で、透析始めて1年になりますが、何がなんだか解らずにここまできました。これからはいろいろなことを勉強しながら前向きに病気とつき合っていくつもりですので、よろしくお願いいたします。

「会」に入れていただいてすぐ通院支援センターにお世話になれたことはとてもラッキーでした。季節柄、これからの送迎は大変な事と思いますがよろしくお願いします。

心よりボランティアの皆様へ感謝申し上げますと共に、会員の皆様のご健勝を記念しております。

お知らせとお願い

「すずらの会」→NPO「腎臓病連絡協議会 すずらの会」へ

「保谷通院サポートサービス・すずらの会」は、2000年12月にNPO認証を受け、NPO「腎臓病連絡協議会 すずらの会」になりました。

「すずらの会」は、保谷厚生病院に通う患者で組織される「保谷腎友会」が母体となっていました。活動地域の拡大に向けて、現在、他の透析施設にも協力を呼びかけています。

実施団体の皆様へ・団体概要作成のお願い

通院介護支援事業交流会の「配付資料」の中に、団体紹介のページがありましたが、空欄や誤りがあったため、実施団体の皆様に追加・修正をしていただきたいと思います。

実施団体宛に、各団体の記入用紙を同封いたしました。直接書き込んで、FAX又は郵送で返送して下さい。回収後、「実施団体要覧」を発行しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

講座「ユメをカタチにするための資金づくり」開かれる

2000年12月15日に、東京ボランティア・市民活動センター主催で、ボランティア・市民活動団体の資金づくりについての講座が行われました。助成財団で審査を担当している2人のコメンテーターから「助成金申請で大切なことは何か？」について、大変役立つお話が聞けました。

詳しくは **別紙2** 参照。

